感染管理認定看護師

―風邪にむやみに抗菌薬を使わないで―

廣島　葉子

感染管理室は、院内感染だけでなく地域の感染対策向上のため、抗菌薬（抗生物質）の適正使用も推進しています。

私たちは１年間に３回程度「風邪症候群」に罹ります。「風邪」の原因となる微生物は、80～90%をウイルスが占め、残りは細菌による感染症です。皆さんが風邪で病院を受診した際、咳止め等と一緒に抗菌薬が処方されることがあります。

実は、抗菌薬は主に細菌を殺す働きをもちますが、ウイルスを殺す働きはないのです。

よく、「抗菌薬で症状がある期間を短くすることができる」と誤解されていますが、健康な成人に限って言えば、抗菌薬を飲んでも経過は変わりません。ウイルスの病気は、基本的に自然によくなるものだということを理解し、抗菌薬の濫用を避ける必要があります。

なぜ、抗菌薬をむやみに使ってはいけないのでしょう？それは、抗菌薬は使用すれば使用する分だけ薬が効きにくい細菌が生き残ってしまうからです。これを薬剤耐性菌といいますが、さまざまな耐性菌の蔓延は国を超えた課題になってきています。

しかし、抗菌薬を絶対に使うべきではない、ということではありません。

ウイルス以外の細菌感染症の治療には抗菌薬が必要です。医療機関での適切な診断に加え、各感染症に適した抗菌薬を正しく選ぶことが大切です。また、65歳以上の高齢者や持病のある方については、免疫力が弱いのでウイルス感染に引き続いて、細菌が原因となる肺炎等を起こしやすいことも念頭に置きましょう。

糖尿病予防フェスタ

日時：平成 28 年 11 月 13 日（日）
　　12：00 ～ 16：00

場所：武蔵野赤十字病院
　　アトリウム・二番館１階
　　外科系外来ホール周辺・
　　三番館１階山崎記念講堂

おまちしています！

主催：武蔵野赤十字病院
　　多摩府中給食施設協議会
　　三鷹武蔵野支部
後援：武蔵野市
協力：武蔵野市医師会

企画担当：
糖尿病療養支援チーム
内分泌代謝科
医療連携センター
問合せ先：
医療連携センター

お知らせ

講座名	糖尿病教室	心臓病教室	プレおばあちゃん教室
開催日	10/1、11/5、12/3	11/9	11/16
時　間	13：00～15：00	14：00～15：00	13：00～15：00
場所	三番館１階　山崎記念講堂		母子保健相談室
受講料	５００円	無　料	3,000円/１人
申　込	不　要	不　要	産婦人科外来
問合せ先	医療社会事業課	循環器外来	産婦人科外来

詳しくは当院ホームページ→病院案内→「公開講座・イベント」でご紹介しています。

武蔵野赤十字病院　電話：0422-32-3111（代表）　　編集・発行：広報委員会　企画課

日本赤十字社
JAPANESE RED CROSS SOCIETY

No.51
2016年 秋

武蔵野赤十字病院

〒180-8610
東京都武蔵野市境南町1-26-1
TEL 0422-32-3111

季刊 情報誌

Eye むさしの

2015 年ネパール地震救援活動、被災地のこどもたちからイラストのプレゼント

基本理念

- ●病む人への愛
- ●同僚と職場への愛
- ●地域住民と地域への愛
- ●地球、自然、命への愛

基本方針

（１）患者・家族から信頼される安全な医療を提供します
（２）地域中核病院としての機能向上を図ります
（３）地域の医療機関・行政と連携して市民が安心して住める地域づくりを進めます
（４）質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続します
（５）働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくります

武蔵野から世界へつないでいく支援

武蔵野赤十字病院の国際活動

医療社会事業課国際救援係

苦しんでいる人を救いたい！

その思いに国境はありません。私たちは病院で患者さんの治療を行うだけではなく、赤十字病院の使命として、国内外を問わず、災害現場や紛争地域など医療・保健分野で助けを必要としている人々のため病院を飛び出して人道支援活動を行っています。

赤十字って？

赤十字は、アンリー・デュナン（スイス人：第一回ノーベル平和賞受賞者）が提唱した「人の命を尊重し、苦しみの中にいる者は、敵味方の区別なく救う」ことを目的とし、世界１９０の国と地域に広がる赤十字社・赤新月社のネットワークを生かして活動する組織です。そのネットワークを生かし、各国赤十字・赤新月社が協力しあいながら人道支援活動を展開しています。

どんな活動をしているの？

苦しんでいる人々のため、主に医療・保健分野で絶え間ない支援を行っています。

緊急救援　～危機から命を救う～
災害や紛争などがおこった時には、人々の命を救うためにけがをした人や病気の人の治療を行うとともに、不安やショックで傷ついてしまった人々のこころのケアを行います。

復興支援　～立ち直る力をサポートする～
緊急救援が落ち着いた後は、悪化した衛生状態を改善し、病気の予防や健康の増進などのノウハウを広めたりすることによって、被害を受けてしまった地域を支え、立ち直ろうとする人々を支えます。

開発協力　～命と健康を守り将来に備える～
平常時から開発途上国の医療の向上を目指して病院や診療所の運営を支援し、人々の命と健康を守り生活を向上させるだけでなく、新たな災害や紛争が起きたときに備える力を養うためのサポートをします。

２０１６年　武蔵野赤十字病院から海外へ派遣されたスタッフ

南スーダン紛争犠牲者救援事業

派遣者　　看護師　朝倉 裕貴
派遣期間　２０１６年３月から２０１６年９月まで
派遣国　　南スーダン共和国

南スーダンは、２０１１年にスーダンから分離独立した後も、戦闘による死傷者や避難民、女性への暴行などが後を絶たず、人道危機が長期化しています。国際赤十字は負傷者に手術や治療を行うほか、医療施設への後方支援・技術支援を実施しています。朝倉看護師は、外科手術担当の看護師として活動しています。

中東地域紛争犠牲者支援事業

派遣者　　総合診療科医師　中司 峰生
派遣期間　２０１６年７月から２０１６年８月まで
派遣国　　ギリシャ共和国

中東地域からギリシャに流入する難民に対しての医療ニーズが高まる中、国際赤十字は２０１５年３月よりフィンランド・ドイツ・日本の赤十字社を中心とした国際編成による医療・保健チームを派遣しています。中司医師はそのチームの一員としてギリシャの難民キャンプでの医療支援活動を行っています。

フィリピン中部台風復興支援事業

派遣者　　看護師　渋谷 美奈子
派遣期間　２０１６年３月から２０１６年１２月まで
派遣国　　フィリピン共和国

２０１３年フィリピン中部を直撃した台風３０号は甚大な被害をもたらしました。日本赤十字社はセブ島北部のダアンバンタヤン郡において被災地域の復興を支援しています。渋谷看護師はこの事業の保健担当要員として衛生状態の向上や病気の予防法の普及などをとおして地域の復興を支えています。